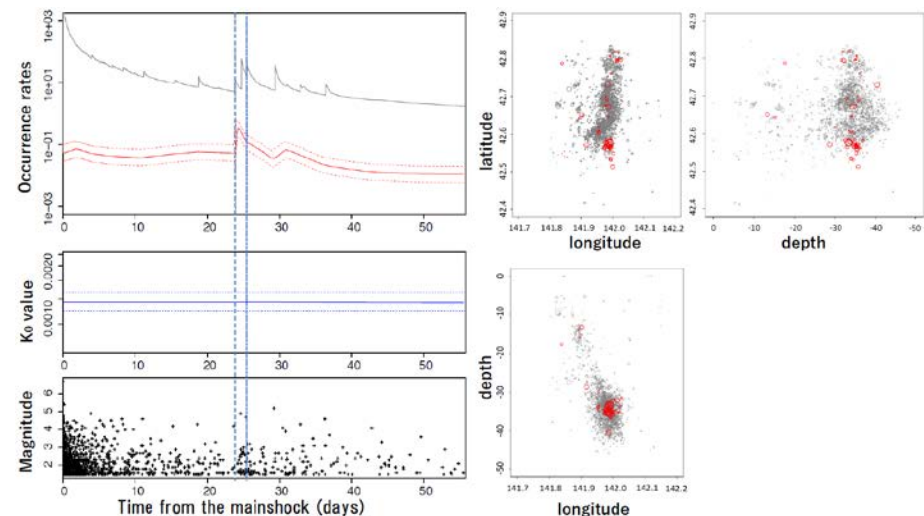
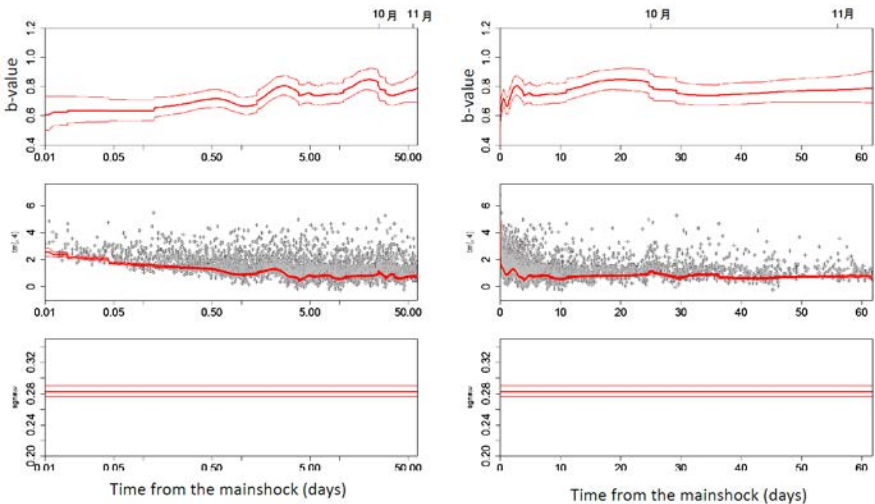


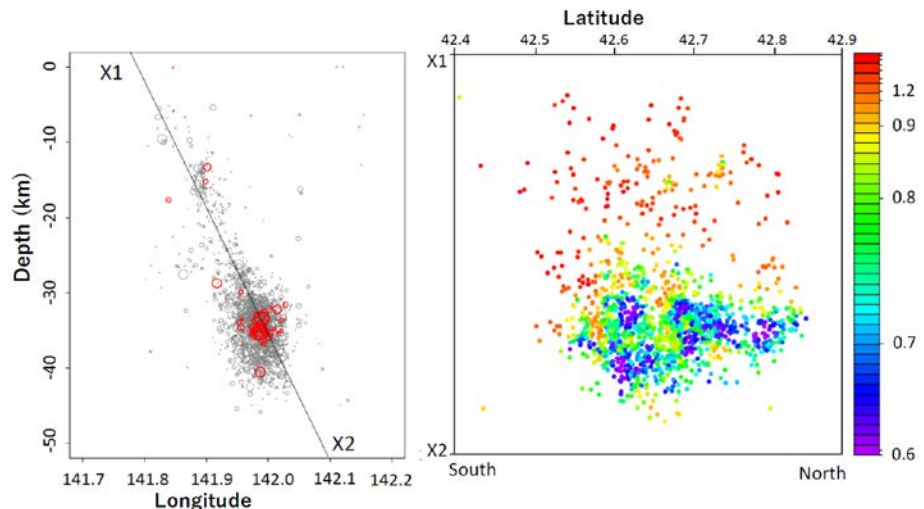
第1図 2018年9月6日M6.8胆振東部の地震の余震活動(M \geq 1.5)を本震後23.4日(9月29日)までETASモデルを当てはめて、その先を外延した結果. 余震の累積数(黒実線)とETASモデルの積分(赤曲線)の通常時間と変換時間の経過図, M-T図, および余震の深さに対するETAS変換時間図. 深さ分布は浅い部分の余震数が拡大しているのが見られる



第2図 非定常ETASモデルの推定結果. 基準パラメータとして第1図のETASモデルの最尤推定値を用いた. 常時活動率 $\mu(t)$ (赤線) および自己誘発率 $K_0(t)$ (青線) の変化. 標準誤差のエンベロップを破線で表示した. 縦の点線は図1の変化点(9月29日)とその3日後を示す. 右側の3つのパネルは余震の震源分布で、赤丸で表したのは右側の縦線で挟まれた3日間の区間での余震を示す.



第3図. b 値の時間変化(上段)50%検出率のマグニチュード(中段)及び部分的検出マグニチュードの範囲(下段). 左側が対数スケール時間で右側が通常時間. いずれも95%誤差がエンベロップで示されている.



第4図. b 値(M \geq 1.5)の空間分布. 左側パネルの灰色丸及び赤丸は第2図の右下と同じ. 右側パネルは南北平行な横断面 X1-X2 に投影された余震の位置での b 値の分布でカラー表に対応する数値になる.